◆まちづくり地域優良事例集◆

西部まちづくりセンター

味生池（あじうのいけ）周辺エリア振興協議会

〈取り組みの内容〉

西区池上校区では以前から鳥獣被害に悩まされてきました。そのため ICT を活用した地域課題解決について研究する熊本学園大学の境 章（さかいあきら）ゼミと池上校区の住民が協力し特産品の開発に取り掛かりました。
まずは、池上校区の地形・史跡等を知るために、まち歩きを実施し、次に平（たいら）地区を知るために地域住民の方にヒアリングを実施しました。
ヒアリングを重ねた結果、鳥獣被害では特にイノシシの被害が深刻な事が話題にあがり、「イノシシ肉を取っても食べるもんがおらん」という言葉がきっかけで、学生から焼肉のタレを開発しようと提案があり協議会のメンバーで搾汁した池上校区特産のネーブルの果汁を使った焼肉のタレを開発することになりました。

〈取り組みの仲間集め〉

味生池周辺エリア振興協議会は熊本学園大学の境章ゼミと池上校区との間を西部まちづくりセンターが取り持ち、3 者が協力して立ち上がりました。
　その他では材料であるネーブルを農家さんから提供して頂けることになり農家さんを巻き込んでいきました。

〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

2019 年に池上校区の住民と熊本学園大学でワークショップを実施し「池辺寺跡（ちへんじあと）」をＰＲする事により、高齢化・過疎化の進む平地区を活性化することが当初の目的でしたが、次第に池上校区全体を巻き込んだ地域の魅力を発掘、発信をする事業に成長しました。

代表　熊本学園大学
名誉教授　境（さかい）　章（あきら）　さん

〈取り組みの意図〉

駆除されたイノシシ肉を美味しく食べられる焼肉のタレを開発しました。材料には農家さんから提供していただいた廃棄されるネーブルを使用し、西区らしい逸品が誕生しました
「味生池（あじうのいけ）　龍伝説のたれ」は池上校区の池辺寺跡が、そのほとりにあった溜池「味生池」に住む龍を鎮めるために建立されたという伝説にちなんで商品名をつけました。

〈今後の展望〉

現在ネーブルを使用した、スパイス、ドレッシング、芳香剤を開発中です。商品のバリエーションを増やし、西区フェスタなどで販売したいと考えています。
「味生池（あじうのいけ）　龍伝説のたれ」１本　500 円